

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校			
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、全職員が基礎的基本的な知識・技能の習得ができる授業展開を行い、生徒が自分の言葉でまとめや振り返りをする場面を設定する授業の充実を図る。 ・心の教育については、全ての教科や学校行事において夢や目標について考える場面や振り返る場面を計画的に設定する。 ・教職員の働き方改革の推進については、教育課程の業務の見直しによって一層の在校等時間の削減を図る。 ・不登校対策については、教育相談部会や月1回の「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」において、情報交換を行い対応を協議する。また、次年度もSCやSSW等と連携を取りながら支援を継続する。			
2 学校教育目標	「自立と尊重～自ら学び、互いを尊重し高め合う生徒の育成～」			
3 本年度の重点目標	1 学力向上と心の教育については、非認知能力に関する調査を利用した支援方法に検討を加える。 2 学校行事やキャリア教育等を通して、夢や目標を持ち、その実現に向けて努力する心を育てる。 3 教職員の働き方改革の推進については、教職員の意識改善を図り在校等時間の削減を図る。 4 不登校対策については、教育相談部会と「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」での情報交換を継続し、対応を協議する。			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	主な担当者
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80%以上 ○学習内容の振り返らせ方を工夫した教員80%以上	・個に応じた指導と協働的な学びの場を設定し、生徒の学習内容の定着と意欲喚起を図る。 ・生徒自身が自分の言葉でまとめや振り返りをする場面を設定する。	学力向上コーディネーター:永田
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒80%以上	・道徳科ではこれまで蓄積した資料を利用してティーム・ティーチング、ローテーションによる授業を行う。 ・道徳に関するアンケートを行う。	道徳教育推進教師:犬塚
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると回答する生徒80%以上 ○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・隔週週末に生活アンケートを行う。 ・毎週の職員連絡会での情報交換及びいじめ防止対策委員会を随時行う。	生徒指導:安武
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒80%以上	・キャリア教育「夢をかなえる地図」等への計画的な記入を行う。 ・儀式的行事の生徒司会化等で「唯一無二の東脊振中づくり」を行う。	進路指導・キャリア教育:堤
	○生徒行動目標「東中生みんなで頑張るHGS」よい挨拶、時間の管理、自問清掃の実践	○挨拶ができる生徒80%以上 (時間を守り行動できる生徒、自分で考えて掃除ができる生徒も同様)	・生徒会総務部によるあいさつ運動やノーチャイムの実施。 ・教員は授業2分前に教室臨場を行う。	生徒会担当:岡山
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食を摂る生徒90%以上 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上	・給食週間等に「早寝・早起き・朝ごはん」の調査を全校生徒に行う。 ・家庭科や保健体育など食事の大切さを取り上げた授業を行う。	給食指導・食育指導:中山、山口
	○健康や体づくりについて意識づくりの促進	○部活動や社会体育及び文化活動に取り組む生徒80%以上	・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、保護者会と連携を図る。	体育主任・部活動担当:城島、松尾
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則時間外在校等時間の上限に達する職員0(ゼロ)。	・保護者に向けた教職員勤務時間文書を配布を行う。 ・長期休業中は終礼を行い、定時退勤を行う。	衛生推進者(教頭):笠
	○適正な部活動の推進と健康管理体制の充実	○水曜日と毎月第3日曜日の部活動休養の100%実施。 本校部活動運営方針に基づき、スポーツ科学等の裏付けのある適切な運営を行う。	・部活動休養日を履行する。 ・管理職は毎月の時間外勤務時間を把握し、産業医(学校医)による面接奨励を行う。 ・教職員のストレスチェックやメンタルヘルスを保持するため、健康情報誌Smileの配布を行う。	部活動担当、衛生推進者:城島、松尾、笠
●特別支援教育の充実	○特別支援教育においての理解と個に応じた支援を行う。	○ふれあい学級の生徒に対するアンケートで、学校が楽しいと回答する生徒80%以上	・特別支援教育推進委員会、職員連絡会で学校生活の情報交換を行う。 ・職員研修を通して、特別支援教育に関する理解を深め、共通認識のもと個に応じた支援を行う。	特別支援教育コーディネーター:古舘
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
評価項目	重点取組内容			
○不登校・長期欠席対応	○長期欠席、不登校及び不登校傾向の生徒(以下「不登校等生徒」)対応の共通化	○不登校等生徒対応に関する理解が向上した教員90%。	・「長期欠席・不登校対応スタンダード」をテキストに、職員が共通認識をもって対応を進める。 ・教育相談部会、ネットワーク連絡会で情報共有と連携を行う。	教育相談担当:岡山
5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育			